
Et Voilà!

2018年11月2日号 (第3号)

【仕事を減らすことについて】

前号で、16:00以降の、おぐのあかり以外の場所への送迎を中止させていただく予定だということをお知らせしました。

これまで利用してくださった方たちにとっては、唐突なように思われ、無責任などを感じる方もおられることでしょう。

それでも派遣を中止させていただきたい理由の第1は、人材不足です。募集をかけてもなかなか集まらない状況では、委託事業のタイムケアや補助事業のグループホームの運営を継続し、新規のグループホーム（サニーおぐ）の開設をするためには、限られた人材を、これらの事業に振り分けなければなりません。そのためには、どうしてもやめなくてはならないこともでてきます。

これまで通りのことを全部をやろうとしたら、全部が中途半端になり、かえって利用者さんに迷惑をかけてしまいます。

そして、なにより、私自身の仕事を減らしたいということもあります。

開業当初から、人手が足りないということもあって、私が他のスタッフと同様、利用者さんの支援につくことが常態化していました。

マネジメントをしなくてはならない人間が、いつも現場で他のスタッフと同じようなことをしているのは、本来の業務ができなくなるおそれがあります。

それでも、利用者さんの依頼に応えようと、仕事の合間に送迎に行ったりしていました。これまでは何とかやりくりできていました。

しかし、この2,3ヶ月、ミスや物忘れが頻繁になって来ました。

財布やめがねをどこに置いたかわからなくなって、探し回るといことが何度もあります。

探し物だけなら、まだいいのですが、先日は利用者さんの送迎を忘れて迷惑をかけてしまいました。おぐのあかりを出る前までは頭に入っていた

のに、他の子どもたちの送迎をやっているうちに、すっかり頭から抜け落ちてしまいました（省みれば、抜け落ちないように工夫する必要はあったのですが）

当然、利用者さんから、無責任とか軽んじられているとの苦情を受けました。

また、調子が悪い送迎車の様子を見ることに気をとられ、利用者さんから目を離し、行方不明にしてしまったこともありましたが（無事見つかりましたが）。このときも、車を見ている間、おぐのあかりの中にいさせておけば何の問題もなかったのですが、判断力が鈍くなっていました。

まったくの不注意ですし、工夫次第で何とか防げるものです（若年性認知症や発達障害の人がやっているように）。

しかし、50代後半になり、体力も落ちてきて、今までのようにやっても、疲れがぬけず、そのため集中力が落ちるなどして、ミスが増え、大きな事故につながる恐れもあります。無理して続けても、結局周りに迷惑をかけることになってしまいます。

そこで、私が仕事の合間に行っている送迎や、ひとりでできそうな人の分から、減らしていこうということもあるのです。

人手不足への対処として、運送業界では値上げをしたり、日曜の配達をやめるところも出てきています。飲食店では、深夜営業をやめたり、閉店時間を早めたりしているところも増えていきます。

今回のお願いは、それらに類したものだと思えば取っていただければと思います。

同じことを繰り返しては、グループホームなどの事業が継続できません。

皆様それぞれに不満はあるかと思いますが、より必要とされることに人材を手配し、事業を継続させるために、ご理解を願いたいと存じます。

【The New Ypek Times の記事から】

The New York Times の10月30日号に、ウガンダの移民政策と現場の様子が紹介されていました。

移民政策といえば、内戦の続くシリアからトルコやヨーロッパに難民が流入し、その対処で国論が割れ、移民排斥を訴える極右勢力が選挙で躍進したり、トランプ大統領がメキシコ移民やイスラム圏からの移民を制限ないしは追放の政策を進めるなどのニュースが、毎日のように流れてきます。

日本でも、政府は移民とは認めませんが、労働力不足を補うために、外国人労働者の受け入れ拡大をめざす出入国管理及び難民認定法の改正案が、国会の大きな論争のテーマになっています。

欧米で移民排斥が進む中、ウガンダ（面積：約24万1千km²、人口：約4,300万人、ひとり当たりのGDP：600USドル、ムセベニ大統領の独裁政権が32年続いています）では、官民そろって、移民の受け入れが進められていて、今では隣国南スーダンなどからの100万を超える移民が、土地を貸してもらおうなどして暮らしているそうです。

これだけ多くの移民を受け入れられるのは、ひとつには、国連から移民対策として、今年だけでも2億ドルの資金が供与されているからです。これは、アフリカの移民がヨーロッパに流れるの防ぐ、ウガンダに受け入れてもらいたいという思惑もあるようです。

そうはいつても、それだけのお金が学校や病院の建設に使われるなどして、移民だけでなく、最終的にはウガンダ人の元にも渡るという実利的な面があつて政府は移民受け入れを進めているそうです。

しかし、理由はそれだけではありません。

かつてのアミン政権の迫害やアミン政権崩壊後の内戦で、多くの人たちが隣国のスーダンに逃れ助けられたということがあったこと、国外に出なくても、故郷を追われて新しい土地で暮らしてき

たウガンダ人は多く、そのため助け合いの精神、特にスーダンや南スーダンからの人たちに対して、かつての恩に報いるというような気持ちもあるそうです。

もちろん、何の問題もないわけではありません。薪の拾い集める場所や、水を汲む場所で追い払われたり、嫌がられることもあるそうです。手に職があつても、なかなか雇ってもらえないなどことはあるそうです。しかし、欧米のように移民排斥にはなっておらず、全体的には平穏に共生しているようです。

少なくとも耕す土地があり、食べ物確保できるというのは、大きいでしょう。ただ、移民の流入が増えるにつれ貸し与えられる土地もだんだん小さくなっているそうです。

移民の中の女性は、自分が産んだこのほか、孤児になってしまった親戚や友人の子どもをいっしょに育て、今では22人の「母親」になっている37歳に女性のことが紹介されていました。命の大切にする気持ち、思いやりや助け合いの気持ちの表れでしょう。

この記事の最後に、6エーカーの土地を持つ青年が取り上げられていて、彼はそのうちの4エーカーを自分で耕し、他の2エーカーを移民2人に貸しているそうです。

「彼らに貸してくれと頼まれた、だから貸した」彼は胸を示しながらこう言った。「ハートからだよ」

あふネットでも、中国や韓国、フィリピンの人たち（永住権のある人たち）が何人もいて、まじめに働いています。出入国管理法改正のみならず、日本の社会全体で、意欲のある人が喜んで日本に来て、幸せに暮らしていけるようなものになりたいものです。

グループホーム3号館開設に向けて 介護スタッフ大募集!!

正社員 月給:22万~30万円以上

時給:1000円~1300円

1夜勤19,000円~(16:00~翌10:00)

社会保険完備 交通費(自転車を含む)支給

身体介護、家事援助、外出支援、通院支援、送迎

障害児タイムケア(障害のある子どもたちのお世話と遊び相手)

グループホーム(早朝、日中、夜間、宿泊勤務)

土日出勤、夜勤のできる人、大歓迎

***** 発行・文責 川口仁志 *****